



今、憲法問題を語る

—憲法問題対策センター活動報告—

第16回 六本木に基地があるのを知っていますか？

憲法問題対策センター副委員長 西田 美樹 (54 期)

1 六本木アートトライアングル

六本木ヒルズや六本木ミッドタウンができて大きく変容する六本木の街。サントリー美術館、森美術館、国立新美術館のあるあたりを総称して六本木アートトライアングルと呼ぶそう。華やかで、にぎやかな街。その街の一角に、米軍基地があるのを知っている人が、何人いることだろう。

2 麻布ヘリポート

その米軍基地は、通称を麻布ヘリポート（公称「赤坂プレスセンター」）という。国立新美術館の向かい側に位置し、都立青山公園の一部を飲み込むように、約3万平方メートルの敷地の中に、約4300平方メートルのヘリポート、星条旗新聞社、将校宿舎などが並んでいる。このヘリポートの部分は、もともと都立青山公園の一部であって、今日まで返還されずに米軍の占有状態が続いており、不法占有との抗議がなされている。

3 現地見学

このような実態を知った憲法問題対策センターは、有志で7月22日、現地の見学に行った。暑い暑い日だった。案内役を務めてくれたのは麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会実行委員長の川崎悟さんだ。

国立新美術館から道路を渡り、ヘリポートへ向かう。ヘリポートの向かい側にはマンションが立ち並んでいるのが見える。と、ヘリコプターの爆音。私たちが見学していたまさにその前にヘリコプターは降りた。

川崎さんの話では「見学に行ったらたまたまヘリコプターが降りてくるのは本当に珍しい」とのこと。どこから飛んできたのだろう。一体どんな人が乗ってきたのだろう。私たちは興味津々でヘリコプターを眺めた。

しばらくして、エンジンを切らないまま、また飛び立っていった。

それからぐるっとヘリポート、星条旗新聞社、将校宿舎を（もちろん外からだが）一周する。星条旗新聞社の向かい側にはマンションが立ち並んでいる。もし事故でも起きたらどんなことになるのだろう。安全対策はどうなっているのだろうか。

半周ほどしたところで基地内に日本のミニパトの姿が見えた。不審人物が基地を見に来ているとの連絡でもあったのだろうか。気の小さい私は職務質問でもされたらどうしよう、と思った（後で考えると、百戦錬磨の弁護士ばかりいたので心配することもなかった）。

4 反対運動のこと

麻布ヘリポートは、地域住民である麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会の方たちが中心となって反対運動をしている。そして、港区議会や、東京都も、土地の返還を求めているそうだ。

5 六本木ヒルズから

現地見学の帰りに、六本木ヒルズの展望台に上がり、麻布ヘリポートを眺めた。足元に見えた。基地問題。遠い出来事のように考えていたが、この街にも色濃く影を落としている。そんなことを実感した。